

令和7年度 指定管理者モニタリングチェックシート

評価期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
施設名	日向市障害者センター	指定管理者名	特定非営利活動法人 日向市障害者団体連絡協議会
所管課	福祉課	指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

自己評価 (指定管理者が記載)	施設の利用状況については、総合的に比較してみると、【令和3年度】利用件数698件（うち障がい者185件）・利用者数5,676名（うち障がい者504名）、【令和4年度】利用件数936件（うち障がい者238件）・利用者数7,678名（うち障がい者835名）、【令和5年度】利用件数1,076件（うち障がい者221件）・利用者数10,227名（うち障がい者1,055名）、【令和6年度】利用件数1,040件（うち障がい者187件）・利用者数10,603名（うち障がい者804名）であり、令和5・6年度の利用者数は横ばいで、これが上限であると推察される。 さらに、令和7年度実績では、利用件数1,168件（うち障がい者209件）、利用者数11,191名（うち障がい者874名）であり、やはり受入れの限界に近いと思われる。 その根拠として、利用者用駐車場の台数が身体障がい者用を含めて20台であり、昨年度においては、台数の関係から利用をお断りした経緯がある。 また、継続して使用されている団体においては、施設から100mほど離れた北側に位置する鉄道高架下の未舗装駐車場の利用に協力いただいております。施設利用の際は、積極的に当該駐車場を利用されている現状である。なお、年間利用者数が10,000名の大台といえる状況とはいえ、障がい者の利用者数の伸びしろが見いだせない。これまでの施設利用者である障がい者の高齢化やADLの低下が影響しているのではないかと懸念している。 職員の自助努力としては、年度開始後、職員自らが既にブラインド清掃、施設内展示物の配置並びに模様替えを行うなど経費節減や施設の魅力向上に努めている。
--------------------	---

評価項目		評価内容	評価		確認資料等
			指定管理者	市	
① 利用状況・サービス向上	施設（サービス）の利用状況	利用者が前年度実績や目標を上回っているか。施設の稼働率はどうか。	B	B	日報、月報、事業報告書
	施設の平等利用	利用者の平等な利用が確保されているか。	A	B	日報、月報、利用者アンケート
	苦情・要望等への対応	苦情、要望等を施設の管理運営に反映できているか。また、苦情数は減少しているか。	B	B	利用者アンケート
	利用者満足度	利用者アンケートは適切に実施されているか。その結果を施設の管理運営に反映できているか。	B	B	利用者アンケート
	サービス向上への取り組み	サービス向上に向けた具体的な取り組みがあるか。（自主事業の周知、接客態度、予約方法の工夫等）	B	B	日報、月報、事業報告書
	自主事業の実施状況	施設の設置目的に沿った自主事業を実施できたか。また、それによって施設利用者は増加したか。	B	B	日報、月報、事業報告書
	①の総括		B	B	
② 管理能力	人員配置の状況	事業計画書の通り人員が配置されているか。必要な資格や経験を有する人員が確保されているか。	A	B	人員配置計画、出勤簿、実地
	人材育成の状況	事業計画書の通り従業員の指導育成及び研修が行われているか。	B	B	研修マニュアル
	コンプライアンスについて	関係法令や市条例、市規則、その他市が定める規程及び仕様書に基づき適切に業務を遂行しているか。	B	B	業務ガイドライン等、実地
	従業員の労働環境	労働法令の遵守や労働条件への配慮がなされているか。	A	B	実地、出勤簿
	外部委託等の状況	業務の全部又は主たる業務を第三者に請け負わせていないか。	A	B	実地
	防犯、防災に対する態勢	避難経路の確保や事故防止策など、緊急事態への対策ができているか。	B	B	実地

	緊急事態に対する態勢	安全・衛生管理や危機管理に対するマニュアル等の整備や従業員を訓練する等、適切に行われているか。	B	B	危機管理マニュアル等、実地
	個人情報の保護	個人情報保護の規程を整備する等、研修や運用等の適切な対応がなされているか。	B	B	個人情報保護マニュアル等、実地
	情報公開の規程状況	情報公開の規程を整備する等、研修や運用等の適切な対応がなされているか。	B	B	情報公開マニュアル等、実地
	文書管理について	作成・受領した文書は適切に保管及び管理されているか。	B	B	実地、保存文書
	環境への配慮	環境に配慮した物品の購入、省エネの取組、リサイクルの推進等の対応を適切に行っているか。	B	B	日報、月報、実地
	②の総括		B	B	
③維持管理・経理状況	施設、設備等の管理状況	消防設備、機械設備の保守点検や施設の修繕等を適切に行っているか。	B	B	日報、月報、点検報告書、実地
	清掃、警備業務の実施状況	仕様書等に基づき、清掃業務、警備業務を適切に行っているか。	A	B	日報、月報、実地
	備品等の管理状況	備品台帳に基づき、備品等を適切に管理・保管しているか。	A	B	備品台帳、実地
	指定管理業務の収支状況	収支状況が当初の目標を達成しているか。（利用料金、委託料等の実績）	B	B	日報、月報、事業報告書
	自主事業の収支状況	自主事業の収支状況が当初の目標を達成しているか。	B	B	日報、月報、事業報告書
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行しているか。	A	B	日報、月報、事業報告書
	経費削減の取り組み	経費削減の取り組みが行われ、成果があらわれているか。	B	B	日報、月報、事業報告書
	指定管理料の精算（返還）	基本協定・年度協定に基づき、精算（返還）の要否を確認し、必要時は返還額算定・期限内返還・証憑整理まで適切に行われているか。	B	B	事業報告書、修繕実績書
	③の総括		B	B	
総合評価		①、②、③の総括による総合評価	B	B	

※総合評価の理由	協定書及び仕様書に基づき、施設の管理運営はおおむね適切に実施されており、利用状況・管理能力・維持管理・経理状況の各総括はいずれも「B」評価であることから、総合評価を「B」（良好）とします。なお、指定管理者が自己評価を「A」とした「施設の平等利用」「人員配置の状況」「従業員の労働環境」「外部委託等の状況」等については、適切な実施は確認できたものの、協定水準を上回る管理が行われたと判断するための客観的エビデンスまでは確認できなかったため、「B」評価としています。 施設利用については、令和7年度の利用者数が11,191人となっており、前年度実績を上回る利用実績が確認できます。 予約が重なる際には、利用調整や提案を行いながら利用機会の確保に努めており、広報紙「あいとびあ通信」の発行やホームページ、施設内掲示板を活用した情報発信も継続して行われています。 また、館内外の清掃、施設管理、備品管理等についても、確認資料及び実地確認により、おおむね適切に実施されていることが認められました。
----------	---

※特記事項 (成果・課題等)	成果として、年間利用者数は引き続き1万人を超える水準を維持しており、令和7年度は前年度利用者数を上回っています。職員が施設内の清掃、展示物の配置、模様替え等に主体的に取り組み、経費節減と施設の魅力向上を図っている点も評価できます。 一方で、障がい者利用者数については、令和5年度の1,055人と比べ令和7年度は874人と伸び悩みが見られ、利用者の高齢化やADL低下等の影響がうかがわれます。 今後は、若年層の新規利用の開拓、関係団体への周知強化、利用しやすい時間帯の把握や事業内容の見直し等により、障がい者利用の拡大につなげる取組を検討する必要があります。 令和7年度は指定期間の最終年度であることから、これまで蓄積してきた施設運営上のノウハウや利用者対応の留意点について、次期指定管理者への引継ぎは概ね適切に行われたものと考えられますが、未整理の事項がある場合は、遺漏のないよう確実に引き継ぐことが望まれます。
---------------------------	--

※総合評価の理由及び特記事項（成果・課題等）は市所管課が記載します。

評価区分	評価基準	A（優良）＝協定書等を遵守し、その水準よりも優れた管理が行われた B（良好）＝協定書等を遵守し、その水準におおむね沿った管理が行われた C（課題含）＝協定等をおおむね遵守しているが、一部に課題が残る内容であった D（要改善）＝協定書等を遵守しておらず、改善が必要な内容であった
	総括	A（優良）＝評価基準が全てB以上であり、かつAが過半数以上である B（良好）＝評価基準が全てC以上であり、かつB以上が8割以上である C（課題含）＝評価基準が全てC以上である D（要改善）＝評価基準にDが含まれている
	総合評価	A（優良）＝総括が全てB以上であり、かつAが2つ以上ある B（良好）＝総括が全てB以上である C（課題含）＝総括が全てC以上である D（要改善）＝評価基準にDが含まれている